



日本統計学会 会報 2016.4.30

No.
167

発行—— 一般社団法人 日本統計学会
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F
公益財団法人 統計情報研究開発センター内 日本統計学会事務局
Tel & Fax : 03-3234-7738
編集責任——中野 純司 (理事長) / 酒折 文武 (庶務理事)
森 裕一 (広報理事) / 久保田 貴文 (広報委員)
西莖 晴久 (広報委員)
振替口座—00110-3-743886
銀行口座—みずほ銀行九段支店普通 1466879番

JAPAN STATISTICAL SOCIETY NEWS

目次

- | | |
|---|---|
| 1. 巻頭随筆：「仁」「義」ある闘い …… 椿 広計… 1 | 5. 統計検定（2015年11月29日実施）合格者の声
……………岩崎 学… 7 |
| 2. 2016年度統計関連学会連合大会のお知らせ(第二報)
……………星野伸明・桜井裕仁・林 篤裕… 3 | 6. 2016年2月通常理事会・委員会報告…………… 10 |
| 3. 第10回日本統計学会春季集会の報告
……………中野純司・青木 敏・田中研太郎・
二宮嘉行・照井伸彦… 4 | 7. 社員総会報告…………… 14 |
| 4. 2015年11月統計検定の成績優秀者………… 中野純司… 6 | 8. 博士論文・修士論文の紹介…………… 15 |
| | 9. 新刊紹介…………… 16 |
| | 10. 学会事務局から…………… 17 |
| | 11. 投稿のお願い…………… 17 |

1. 巻頭随筆：「仁」「義」ある闘い

椿 広計（独立行政法人統計センター）

科学の発展が、環境汚染などをもたらし、人類の将来を危うくしたとの論がなされるようになって久しい。一方、それは科学自体が悪いのではなく、科学を技術化し利用する人間の問題であろう。この種の人間の問題を長期的に解決する方策が教育である。

科学の目的が、価値観に依存しない知の地平を広げることであった以上、その教育が、知識の現状を把握し、その足らざるところの誠実な認識に投じられたのは当然である。一方、技術は、知識のみならず開発者・利用者の価値観に強く引きずられる。そこには、技術倫理教育のような知のあり方に資する教育が求められる。倫理というと、人の道に外れないことを日本人は思い起こすことが多い。しかし、専門家は自らの力量を磨き、社会の為に闘い続けなければならない。闘いの道標となり、専門家の全力の行動を支えるのが、行動基準であり闘いの倫理としての“Virtue”であった。

K. Pearson は、近代統計科学構想の書である「科学の文法」に先立って、「自由思想の倫理」を講義し、まさに科学により知の地平を開拓することに謙虚かつ全力をつくすことが宗教的倫理にかわる新たな Virtue となることを示唆している。それが、20世紀における統計科学発展の大義であった。

一方、東洋は儒学の影響の下、「仁義礼智信」、いわゆる五常に即した行動の重要性が説かれてきた。この中で、「義」は正義といったような価値尺度が付随する。価値観の相違の異なる義を貫くことが、共同体間の闘争の発端となることもあった。小生は、「義」とは自身や自身が属する共同体の価値観に即し、全力を尽くした最適化行動を行うことと考えている。一方、「智」は、西洋科学の知識と似た価値中立的概念なのであろう。「智」と「義」とに強く支えられているのが、近代社会ということなのであろう。

さて、「義」や「智」に対して、「仁」は、他者

や自身が属さない集団の価値観をも篤く配慮してより広い社会に尽くすために、全体最適のために痛みを受けるものを保護する制約条件を社会に課する態度と感じている。「仁」という概念は、多様な価値観を持つ人間が集団で共存するために必要であり、即物的に言えば、自身と他者の利得関数を含む多目的最適化問題に適切な制約条件を課す原理である。この種の倫理的制約を意識することのついでに言えば、「礼」という概念は、発達途上の個人よりいかなる評価軸でも勝る、非許容的な自身の決定関数を改めようという規範を示している。「信」は、自他ともに五常に基づく合理的決定関数に虚偽なく従い行動する社会を成立させる行動規範である。こう考えると、科学の文法を超えて科学の倫理自体が、統計的決定理論に関わる数理的記述が可能ではないかという妄想にとらえられる。

さて、「仁」への配慮は、自身の所属するコミュニティの競争性を失いかねない規範である。実際、わが国でも文明開化期以来、軽視される傾向が助長されたのではなかろうか。現在、地球上の多くのコミュニティが物理的にも情報的にも接触可能となり、いわゆる多文化共生の時代を迎えたことで、実生活空間内での効用関数のコミュニティ間分散が大きくなった。まさに、「仁」といった概念への配慮の重要性・有用性が急増しつつある時代となっている。

既に、20世紀に、統計学は、科学のみならず技術をも横断する、知の生産性向上全体に関わる学術として社会化していた。実際、人間を対象とした統計的実験の倫理は、生物統計学分野では既に必修のものとなっている。日本計量生物学会が、統計家の行動基準を定め、統計専門家の認証事業を開始した。日本品質管理学会も倫理基準を定めた上で、「品質管理検定」を認定している。日本統計学会も倫理を基調とした統計家の認証について取り組む時期ではないだろうか。

さて、もう一つの大きなトリガーは、人間の直接的コントロールを離れ、自立的に人間の能力を超えた活動が可能となる統計的機械学習に基づく確率

的ロボティクスが実現しつつあることである。2016年3月12日に遂に囲碁の名人を破ったグーグルの人工知能を開発したディープマインド社CEOのハサミス氏が語っていたことと関係するが、統計家自身の行動や直接的判断のみならず、統計家により開発された学習型アルゴリズムの挙動も倫理的でなければならないのである。人間でなく、人間を超えるであろう機械にも「仁」を学習して頂く必要がある。このような時代背景の中で、先に述べたように、倫理的制約を数理的決定理論の枠組みの中で、冗談でなく明示的に位置づける必要がある。

このように、知の教育としての統計教育だけではなく、「義」や「仁」を講ずる場が設計される必要が生じている。大学一年の時に、田口玄一先生に初めて統計学を習った。先生の教えの知の部分は、未だによく理解できない部分もある。しかし「いいですか、良い技術者というものは、……とするのです。」と声を輝かせていた印象は強烈に残っている。田口先生が亡くなられたとき国際統計協会のNair会長（当時）が、田口の統計学は、人類への貢献を意識していたというような田口先生に対する弔文を載せたことも、さもありなんと思われた。

勿論、我々がこれを真似して統計や数理の利用の仁義を講じても、学生にどの程度納得して頂けるかは心もとない。統計学の大義やその良さは、統計家個人の研鑽の中で身につくかもしれない。しかし、「仁」の体得となると、やはり異なる考え方を持つ学生が互いにその大義をぶつけると同時に、他者が何を考えているのか、他者は自分をどのように見ているのかといったメタ認知活動を体験しなければ難しいのではないだろうか。現在初中等教育の指導要領改訂の議論が進んでおり、アクティブ・ラーニングと呼ばれる自律的・集団的算数・数学活動への傾斜が叫ばれている。また、統計的方法は、その種の活動での積極利用が期待されている。一方、集団学習が単純な多数決原理を助長する教育に結果的になってしまうとすれば問題である。メタ認知能力を育み、多数決ではな

く、価値の多様性を受容可能な精神を求める場をデザインすれば、人類の未来にも少しは明るさが

見えてくるように思う。

2. 2016年度統計関連学会連合大会のお知らせ（第二報）

2016年度統計関連学会連合大会

運営委員会委員長 桜井裕仁（大学入試センター）

実行委員会委員長 星野伸明（金沢大学）

プログラム委員会委員長 林 篤裕（九州大学）

今回で15回目になる2016年度統計関連学会連合大会について進捗状況をご報告いたします。今大会も統計関連学会連合に属する全ての学会の共催により開催する運びとなりました。大会1日目（9月4日（日））は、チュートリアルセッションと市民講演会を香林坊にある石川県教育会館で開催いたします。一般講演などは2日目以降（9月5日（月）～7日（水））に金沢大学角間キャンパスの人間社会第1講義棟で開催いたします。

この第二報では、主に企画セッションの公募をご案内いたします。今後、連合大会のホームページ

<http://www.jfssa.jp/taikai/2016/>

に関連情報や詳細情報を随時掲載していきますので、ご覧ください。

1. 企画セッションの公募

統計関連学会連合大会プログラム委員会は、市民講演会、チュートリアルセッション、企画セッション、コンペティションセッション、ソフトウェアセッション等を担当しております。統計関連学会会員の皆様でご意見やご提案をお持ちの方は是非お知らせください。

また、企画セッションに関しましては、今回もこれまで通り公募いたします。広い意味で統計学の発展への寄与、統計学の社会的使命に関わる企画のご提案を歓迎いたします。なお、応募が多数の場合にはプログラム委員会で調整させていただくこともありますのでご了承ください。

企画セッションの申込みに際しては、セッショ

ンのテーマとねらい、オーガナイザーの氏名・所属・連絡先、予定講演者と演題名をメールにてお知らせください。企画セッション1件あたりの時間は120分を予定しております。講演件数・講演方法などは、この時間の範囲で自由に設定いただけます。

企画セッション応募締切り

2016年4月17日（日）[厳守]

企画セッション応募先

kikaku2016 (at) jfssa.jp (at) を@に置き換えてください。

担当責任者 川端一光（明治学院大学）

2. その他の準備状況のご報告

2.1 コンペティションについて

「コンペティション講演」に関わる事項は次の通りです。コンペティション講演は、研究内容とプレゼンテーションの能力を競う企画です。参加資格は2016年4月1日時点で満30歳未満の若手研究者（博士後期課程院生を含む）、または、講演時に学部学生や修士課程（または博士前期課程）院生（年齢を問いません）です。連名講演の場合、コンペティション対象者は実際に口頭発表する方です。なお、研究報告の申し込み時点でコンペティション対象者は、共催6学会のいずれかの会員でなければなりません。ただし、申し込みと同時に入会手続きをする方も含みます。また、事前審査は行いませんので、申し込んだ有資格者全員がコンペティションに参加できます。審査は、報告集の内容と当日の口頭発表に対して、各学会から

選出された審査員による総合的な評価で行います。

2.2 チュートリアルセッション、市民講演会、ソフトウェアセッションについて

9月4日にチュートリアルセッションおよび市民講演会を開催予定です。多くの市民や研究者の方々にとって興味を持っていただける内容を企画中です。皆様の積極的な参加をお待ちしています。また、昨年と同様にソフトウェアセッションについても計画しています。詳細は、第三報でお知らせいたします。

2.3 一般講演申込、報告集原稿提出、事前参加申込について

一般講演や参加の事前申込み、報告集原稿提出はホームページ上で行います。一般講演申込の締

め切りを5月下旬（予定）とし、それ以降、報告集原稿提出および事前参加申込の締め切りを設定いたします。確定した期日や具体的な企画は、2016年4月下旬頃発行予定の第三報でお知らせいたします。

3. 宿泊早期予約の注意喚起

2015年3月の北陸新幹線開業以来、金沢市内および近辺では宿泊施設の予約が取りにくい状況が続いています。また本大会の開催期間には、金沢大学角間キャンパスにて他学会の開催も予定されており、近隣の宿泊施設は満員になることも予想されます。金沢駅周辺のホテルには、既に満室のホテルも出てきています。お早めに宿泊をご予約ください。

3. 第10回日本統計学会春季集会の報告

中野純司（日本統計学会理事長）

青木 敏・田中研太郎・二宮嘉行（企画・行事委員会）

照井伸彦（実行委員長）

標記の集会が2016年3月5日（土）に東北大学川内南キャンパス（仙台市青葉区）で開催されました。今回の集会では、1つの会長招待特別セッション、4つの企画セッションとポスターセッションが企画され活発な議論が交わされました。

午前の会長招待特別セッションは「ビッグデータとデータサイエンス人材育成（オーガナイザー：岩崎学，日本統計学会会長・成蹊大学）」というテーマで行われました。このセッションでは、海外より講演者として Yuan Wei 教授（人民大学副学長・大学院長）を、討論者として Andrej Blejcek 教授（国際統計教育協会会長・スロベニア統計学会会長）と Taerim Lee 教授（国際統計協会副会長・韓国国立放送大学研究科長）を招き、2つの講演と活発な議論が行われました。

ポスターセッションは昼休みをコアタイムとして開催され、学部生、大学院生、若手研究者が、

昨年の30件を大きく上回る47件の発表を行いました。コアタイムの前にはポスター発表者同士がお互いに説明し合い、発表者同士の交流がありました。また、コアタイムでは、来場者との熱心な議論により有意義な研究交流がなされました。優れたポスター発表に贈られる優秀発表賞は、今泉允聡氏（東京大学）、川島孝行氏（総合研究大学院大学）、永田大貴氏（慶應義塾大学）、茂木快治（早稲田大学）、藤山俊文氏（東京大学）、山田健太郎（総合研究大学院大学）の六名に、学生優秀発表賞は、小池孝明氏（慶應義塾大学）、高昌哲也氏（大阪大学）、深澤優太氏（東京大学）の三名に授与され、懇親会において岩崎学会長より表彰されました（氏名は五十音順）。

午後は2つのセッションを並行し合計4つのセッションが実施されました。以下にオーガナイザーとセッション名を挙げます。渡辺美智子氏（慶

應義塾大学)「公的データの高度化と2次的利用の促進」, 服部聡氏(久留米大学)「不完全データ解析における頑健推測とモデル選択」, 二宮嘉行氏(九州大学)「混合効果モデル:理論と応用」, 増田弘毅氏(九州大学・JST CREST)「高頻度従属データの推測理論とその周辺」.

セッション終了後, 同大学にて懇親会が開催され, セッションの議論の続きや会員相互の親睦・情報交換を行うことができました. なお, 懇親会の参加者は70名(昨年度は60名)でした. ポスター発表の授賞式が懇親会の席で行われることもあり, 例年通り多くの学生の参加がありました.

春季集会は単一セッション, もしくは2つの並

行セッションで構成されていますので, じっくりと研究発表を聞くよい機会となっており, 今回の春季集会も多くの発表者, 参加者に恵まれました. お陰様で盛会のうちに終了することができました. 最後に, 本集会を成功裏に導いて下さった方々に感謝を申し上げます. 次年度の春季集会は政策研究大学院大学(東京都港区六本木)で開催予定です. 春季集会では会員の皆様からのご提案をお待ちしています.

春季集会 URL :

<http://www.jss.gr.jp/ja/convention/spring/10/JSSspring2016.html>



4. 2015年11月統計検定の成績優秀者

中野 純司（日本統計学会理事長）

2015年11月29日に第7回目の統計検定が6試験種別で行われました。以下に、各試験種別の合格者のうち、成績優秀者でかつ公開に同意された方々の氏名を掲載します。掲載は姓の五十音順です。また以下の情報は統計検定のホームページでも公開しております。

1級「統計数理」

最優秀成績賞（S）：川上悦子，森元俊成

優秀成績賞（A）：大澤志乃，CAI PENG，原田将彰

1級「統計応用」（（ ）は選択した応用分野）

最優秀成績賞（S）：近藤洋平（理工学），高部勲（社会科学），中村道宏（理工学），原田将彰（理工学）

優秀成績賞（A）：青木健児（人文科学），内場崇之（人文科学），大澤志乃（医薬生物学），川上悦子（理工学），田嶋幸聖（医薬生物学），韓舜基（理工学），溝口聡（理工学），皆川拓（理工学），山本耕平（社会科学）

2級

最優秀成績賞（S）：井浦航希，石川裕絵，伊東弘晃，大久保亮，尾澤佳世，金重洸紀，河上聖弥，小西亮輔，塩谷政典，嶋田新也，高見真宏，田中裕一，栃谷智秋，中永多玖人，夏目裕幸，西出遼平，野口正太，橋本くるみ，桧垣卓也，福田弘樹，松永晃典，森谷尚子，吉村拓馬，和田明菜

優秀成績賞（A）：芦澤宏明，新井康平，石原一志，伊藤憲和，稲岡拓馬，岩子洋一，岩本亮介，植田優仁，白井猛，大下祐樹，岡田健吾，小川順一，加藤宏行，桑山雅行，小久保修，小林健了，小林等，笹川泰宏，佐々木一宏，佐々木誠

夫，佐々木哲生，佐々木裕史，須田孝二，砂塚利彦，早乙女輝美，高橋邦久，田中達也，多淵知樹，田村哲也，角田和真，寺島志郎，登多維，栃澤欣之，中山大地，西迫莉，長谷川祐平，平田克幸，廣畑和紀，古田貴喜，松嶋聡，三輪岳史，望月優志，吉田哲郎，米原径，劉銳超，渡辺雄太

3級

最優秀成績賞（S）：上野峻矢，大江信宏，岡村果歩，木宮勇毅，島泰晴，下平侑果，温品豊永，畠中啓佑，平岡道代，藤部寛大，古庄伸一，宮崎伸貞，向井宏彰，行正翔，米原径

優秀成績賞（A）：伊藤太郎，岩村彰，内田潤，太田一宏，大山夏実，小川美晴，小泉大輔，齋藤光，佐藤有紀，白幡良，鈴木琴音，大工泰裕，田辺直哉，塚本裕美，寺崎聡義，外山達斎，中田和彦，中村亮太，橋本翠，広岡佳晃，福沢嘉恵，藤井美穂，堀尾海風，松木拓，松嶋聡，山崎浩通

4級

最優秀成績賞（S）：加藤隆彰，西村英樹，藤部寛大

優秀成績賞（A）：猪川京子，池田孝利，鍵本圭斗，桔梗恵一，外山達斎，福島芳範，松浦康平，三上公明，椋本晃啓

統計調査士

最優秀成績賞（S）：遠香尚史，山品浩三，山城美和

優秀成績賞（A）：有村和浩，朝倉真粧美，浅野昭祐，石堂慎也，白井猛，岡本泰洋，折笠洋平，亀田伸哉，木村弘志，芝本琢巳，樽見晋平，長坂英明，馬場和徳，牟田真也，村田輝行

専門統計調査士

最優秀成績賞 (S) : 小川広大, 樽見晋平

優秀成績賞 (A) : 青木智乃紳, 浅野昭祐, 生

田洋輝, 岩瀬徳朗, 遠藤香織, 木村弘志, 小島香, 堀内映志, 道明源太

5. 統計検定合格者 (2015年11月29日実施) の声

岩崎 学 (日本統計学会会長)

統計検定 (2015年11月29日実施) の合格者よりいただいた声を掲載します。

1級「統計応用」(理工学) 合格

統計学への理解が深まっただけでなく, 興味・関心も増しました。

近藤 洋平さん (東京大学理学部物理学科4年)

高校時代から統計学に関心がありましたが, なかなか本腰を入れて取り組めずにいました。そんな中, 東大生はJINSEの統計教育達成度評価の一環として受験できると聞き, いい機会だと思い1級合格を目標に統計学を勉強することにしました。

公式テキストと竹村先生の『現代数理統計学』を通読した後, 過去問に取り組みました。専攻である物理で使う計算が多々あったため, 計算にはあまり苦労しませんでした。一方で, (特に統計応用で) 初めて知る概念が多く, 定義を覚えたり, 意味を理解したりすることに苦労しました。

統計応用の試験範囲が広く, 怪しいところも多々あるまま, 試験当日を迎えてしまいました。ヤマが当たったこともあり, S評価で合格することが出来ました。統計数理も計算量に苦労しましたが, なんとか合格することが出来ました。両方合格することは難しいかなと思っていたので, 合格を知ったときはとても嬉しかったです。

統計応用は, 現在の専攻 (物理学) に近そうな理工学分野を受験しました。公式テキストを眺めているうちに社会科学分野にも興味を持ったので, 時間的余裕があれば社会科学分野も受験してみたいなと思っています。

統計検定の勉強を通して, 統計学への理解が深

まっただけでなく, 興味・関心も増したので, 受験して良かったです。これからも統計学を学び, そして必要に応じて使っていければよいなと思います。

2級合格

何を学習しなくてはならないのかが明確になり, 段階的に知識をつけていくことができました。

河上 聖弥さん (東千葉メディカルセンター 看護師)

以前より統計学の知識の必要性については感じていましたが, 何を目標に勉強すれば良いのかわからず調べていました。そのような時にインターネットで統計検定の存在を知りました。数学的な知識は10数年前に高校で習って以降は全くと言って良いほど使用することなく過ごしてきました。そのため基本的な知識はないに等しい状態でしたが, 統計検定合格という目標ができたことで自分が何を学習しなくてはならないのかが明確になり, 段階的に知識をつけていくことができました。

私は統計検定対応の参考書と公式問題集を主体に学習を行いました。1回目の試験では不合格となってしまいました。そこから問題演習を多くこなす必要があると感じて2回目までに多くの問題と接するために参考書を準備して取り組んでいきました。その結果, 今回最優秀賞を頂くことができました。私のように数字に接する機会のない方は, 多くの問題と接することで解法を導くまでの時間が短縮され試験対策としては有効ではないかと思います。

医療分野では様々な業種の方と協力して患者の治療を行わなくてはなりません。そのような時に

客観的な指標を用いたデータ分析を行い他者に説明できることは重要なスキルとなります。今回得た知識を臨床の現場へ応用し日々の業務に生かしていきたいと思います。また、今後は1級の合格を目指して学習を続けていきます。

過去問だけでなく、参考書に載っている練習問題も解くようにしました。

古田 貴喜さん（株式会社ササクラ）

統計学をものにしたいなと思い、参考書に目を通すも中々頭に入ってこない。そんなとき、インターネットで見つけたのが統計検定でした。大学は文系だったので、3級から始めようと思い立ちました。

3級は試験の3か月前くらいから過去問だけを解いて本番に望みました。3級はこれだけで合格できました。これなら2級も簡単かなと思い、3級と同様、1回目の試験では過去問しかやりませんでした。これは、見事に不合格。しかも、正答率も半分程度と惨憺たる結果でした。

不合格の原因を考えた結果、確率・確率分布に関する理解が足りないという結論に至りました。統計検定2級において、確率・確率分布に関する問題は以外に多いのです。しかもグラフの読み取りと違って、確率の考え方を理解していないと全く歯が立ちません。思い返して見れば、過去問だけを解いていた頃は、それらの問題の解説を読んでも、何を言っているのか理解できていませんでした。

そこで2回目の試験対策として、過去問だけではなく、参考書に載っている練習問題も解くようにしました。私は、参考書として「宮川公男著 基本統計学」を使っていたので、2級の試験範囲となっている章の練習問題は、全て解きました。2回目の試験で優秀成績者として合格出来たのも、この練習の賜物と思っています。

2級を合格してから改めて参考書を読み返すと、書いてある内容が腑に落ちていることが実感できます。統計学の勉強のために統計検定を使うことは、非常に有用だと思います。統計学の知識を更

に深めて行くために、準1級・1級合格を新たな目標として、これからも勉強を続けていくつもりです。

統計検定の一番の特徴は、最新のデータを使った問題の楽しさにあると思います。

小林 等さん（教員）

統計検定は書店に置かれた公式問題集で知りました。何気なく目にとまった「統計検定公式問題集」の文字に惹かれ、パラパラとめくってみました。一見して今までの専門書になかった、解いて楽しく、しかも実社会に役立ちそうな問題ばかりで、即座に購入しました。私は教員ですので生徒に統計を教える機会があります。複雑化する社会で統計学が重要になることに比例して、高校数学では統計が重視されています。しかし教科書で扱われている内容は、教育課程の制約もあり、もの足りなさを感じていたところでした。統計検定はそんな私には大変魅力的でした。

仕事で使う excel の分析ツールの存在も受験の動機の一つです。せっかく「データ分析ツール」があるのに、どのようなときにどのような統計的分析を行えばいいのかわかりませんでした。このツールを使いこなしたいと思い、統計学の専門書で学習しようと思いました。しかし忙しさを理由に学習を先に延ばし、何も身につけていないことに気づき、モチベーションが下がってしまうのでした。

統計検定はそのような私にぴったりでした。以前学んだことを思い出しながら、基本を確認し、少しずつ知らなかったことがわかるようになりました。検定のよさは、試験までにマスターすべきことが明確で、計画的に学習しやすいことだと思います。短期的な目標があればこそ、スキマ時間を見つけて集中して学習することができました。そして統計検定の一番の特徴は、最新のデータを使った問題の楽しさにあると思います。問題中に扱われるデータと作問のセンスのよさは授業を行う際に大いに参考になります。これからも楽しい問題を期待しています。

勉強をし直す目標として受験しました。

栃谷 智秋さん（会社員）

統計学は、大学の教養課程で学びましたが、t検定あたりで挫折しました。その後、生命科学の研究に携わり、統計を用いて実験結果を解析する場面も出てきましたが、よくわからぬまま、他の人の使う手法を、半ば盲信的に用いておりました。このままではならぬと、時折思い返したように、昔の教科書を開いては、挫折を繰り返しておりました。

今回の受験も、何回目かに思い返して、勉強し直そうと思ったのがきっかけでした。勉強には、目標が必要です。何か手頃な目標はないかと、ネットで調べて、出たのがこちら、統計検定でした。とりあえずは2級合格を目標として、勉強することにいたしました。

勉強のため、まずは標準テキストを購入しました。買ってはみたものの、やはり理解は進みません。数式を睨んでいると、どうにも臉が重くなるのです。「もうちょっと勉強してから……」と、受験は先延ばしにしておりました。

しかし、自分を追い込むため、とうとう受験を申し込みました。過去問題集も買いました。理解は不十分でしたが、標準テキストや、他の教科書も参考に、問題を解くことに努めました。その結果、覚えた数式を当てはめて、なんとか、問題だけは解けるようになりました。今までわからなかったところも、おぼろげながら、少しは理解できたようです。振り返ってみれば、それまでは、自ら計算もせず、見ただけ、聞いただけで、理解しようとしたところに、無理があったのかもしれない。

受験を終えた今でも、目からウロコというほどの理解は、恥ずかしながらできておりません。今後は、今回学んだことを、実践の中で確認し、生命科学分野のもう少し専門的な統計手法についても、勉強してみたいと思います。

3級合格

ビッグデータ時代の登龍門

島 泰晴さん（株式会社 NTT データ MSE）

私は今の会社に入社してから10年以上、開発業務に従事してプログラミングや設計スキルを身に付けて来ました。

転換となったのは2012年で、社内でビッグデータ分析をテーマに研究開発を立ち上げました。当初は試行錯誤の連続で苦労は多かったですが、メンバでいろいろ考えたり大学との連携や関連部門などと連携したりして、とても楽しかったのを覚えています。

翌年には社内で認められて研究開発チームが課に昇格し、分析業務も少しずつですが案件化していきました。今年になって業務も起動に乗り落ち着いたところで、何か不足していると少しずつ感じ始めました。自分たちの分析スキルはどの程度なのか、それを証明する方法はあるのか。そこで、統計学に目を付けました。ただ、学生時代の記憶ははるかかなたで、また私が中学・高校のときには、統計はまだ学習要項になかったため、用語など初見のものも多かったです。

2015年度になり、口コミでメンバを募って統計学の学習を開始しました。gaccoの統計学I、IIを受講し、11月の統計検定にチャレンジしてみようとなったわけです。8月に統計検定受験のためのメンバを5名集め、モチベーションが維持できるか不安があったので、週に1回集まって問題を解く機会を作りました。集まるのが苦にならないようにノルマを課さず、間違えた問題をざっくばらんに言い合える楽しい雰囲気にして、4級の過去問から解いていきました。分からないところは、答え合わせ時にWEBで調べたりして、知識を共有しました。

そのおかげで、5名中5名全員が3級に合格することが出来ました。

統計学の学習をしてみて、統計学はやはり学問であり、普段業務で行っているビジネスとは異なるものであると感じています。現在は、統計学をどのようにビジネスに活かしていくのかを話し合っていて、体系的にまとめることに取り組んでいます。

6. 2016年2月理事会・委員会議事録

理事会（2016年2月6日）報告

日時：2016年2月6日（土）12：00～13：30

場所：統計数理研究所八重洲サテライトオフィス
会議室

理事の総数12名 出席理事の数10名

監事の総数3名 出席監事の数2名

出席者

理事：岩崎学会長，中野純司理事長，酒折文武（庶務），間野修平（庶務），山下智志（会計），笹田薫（会誌編集和文），森裕一（広報），青木敏（大会・企画・行事），照井伸彦（渉外），瀬尾隆（渉外）（以上，10名，カッコ内は役割分担）

監事：鎌倉稔成，国友直人（以上，2名）

<第1議案> 日本統計学会委員会規程の変更

中野理事長より，資料に基づき，渉外委員会の新設を含む委員会規程の変更を社員総会に諮る旨の提案があり，承認された。

<第2議案> 常設委員会における委員の交代

中野理事長より，資料に基づき，ISI 東京大会記念基金運営委員会の委員を以下のように推薦する旨の提案があり，承認された。

・ISI 東京大会記念基金運営委員会（任期2016.4.1～2020.3.31）

美添泰人，西郷浩，中野純司，宿久洋，岩崎学

<第3議案> 臨時委員会における委員の交代

中野理事長より，資料に基づき，質保証委員会，基準委員会，出版企画委員会，産学連携推進委員会の各臨時委員会の委員を次のように定める旨の提案があり，承認された。

・質保証委員会（任期2016.1.1～2016.12.31）

竹村彰通（委員長），岩崎学（副委員長），伊藤彰彦，今泉忠，田栗正章，田村義保，舟岡史雄，山本拓，渡辺美智子

・基準委員会（任期2016.1.1～2016.12.31）

田栗正章（委員長），今泉忠，岩崎学，岡太彬訓，折笠秀樹，竹村彰通，田村義保，椿広計，西村圭一，林篤裕，藤井良宜，水田正弘，山口和範，渡辺美智子，美添泰人

・出版企画委員会（任期2016.1.1～2016.12.31）

鎌倉稔成（委員長），岩崎学，国友直人，西郷浩，竹村彰通，田中豊，矢島美寛，酒折文武，中野純司

・産学連携推進委員会（任期2016.1.1～2016.12.31）

椿広計（委員長），大野忠士，鎌倉稔成，鈴木督久，西井龍映，舟岡史雄，安川武彦，中野純司

<第4議案> 2016年度事業計画について

中野理事長より，資料に基づき，2016年度事業計画について提案があり，一部修正の上承認された。

<第5案> 2016年度予算について

中野理事長より，資料に基づき，2016年度予算について提案があり，一部修正の上承認された。

<第6議案> 情報・システム研究機構統計数理研究所との Akaike Memorial Lecture の協定の締結について

中野理事長より，資料に基づき，情報・システム研究機構統計数理研究所との Akaike Memorial Lecture の協定を正式に締結することについて提

案があり、承認された。

<第7議案> 会員の入退会（回覧）

中野理事長より、回覧資料に基づき入退会者が紹介され、承認された。

委員会（2016年2月6日）報告

日時：2016年2月6日（土）13：30～15：30

場所：統計数理研究所八重洲サテライトオフィス
会議室

出席：理事10名，監事2名，計12名

岩崎学会長，中野純司理事長，酒折文武，間野修平，山下智志，笹田薫，森裕一，青木敏，照井伸彦，瀬尾隆，鎌倉稔成（監事），国友直人（監事）

<報告事項>

1. 欧文誌編集委員会

報告事項なし。

2. 和文誌編集委員会

笹田委員長より、第45巻第2号（2016年3月発行予定）の編集作業の進捗状況が報告された。

3. 大会委員会

報告事項なし。

4. 企画・行事委員会

青木委員長より、資料に基づき、第10回日本統計学会春季集会に関する報告があった。

5. 庶務委員会

酒折委員長より、研究部会の公募結果に関する報告があった。

6. 広報委員会

森委員長より、ウェブサイトの更新について報

告があった。

7. 国際関係委員会

報告事項なし。

8. その他

瀬尾理事より、統計検定の活動に関して報告があった。

<審議事項>

1. 欧文誌編集委員会

審議事項なし。

2. 和文誌編集委員会

審議事項なし。

3. 大会委員会

審議事項なし。

4. 企画・行事委員会

審議事項なし。

5. 庶務委員会

審議事項なし。

6. 広報委員会

森委員長より、資料に基づき、会員の特典の明記および賛助会員特典の整備についての提案があり、議論された。

7. 出版企画委員会

審議事項なし。

8. 国際関係委員会

審議事項なし。

9. その他

なし。

2016 年度事業計画

(2016. 4. 1～2017. 3. 31)

I. 出版編集事業

1. 欧文誌の発行
欧文誌 2号 [Vol.46 No.1 (6月), No.2(12月)] を発行する。
2. 和文誌の発行
和文誌 2号 [第46巻シリーズJ第1号(9月), 第2号(3月)] を発行する。
3. 会報の発行
No.167 (4月), No.168 (7月), No.169 (10月), No.170 (1月) を発行する。
4. 統計学に関わる書籍を刊行する。

II. 内外学界交流事業

1. 日本統計学会第84回大会の開催
2016年9月4日～7日の4日間におたり、金沢大学において開催する。
統計関連学会連合大会の一環として開催する。
2. 春季集会の開催
2017年3月上旬に第11回春季集会を開催する。
3. 研究分科会の活動
現在、活動中の以下の分科会に加え、新規に活動を開始する分科会を随時募集する。
「スポーツ統計分科会」(田村義保主査: 2009年6月発足, 2017年5月終了予定)
「統計教育分科会」(藤井良直主査: 2010年12月発足, 2018年11月終了予定)
「計量経済・計量ファイナンス分科会」(福重元嗣主査: 2010年12月発足, 2018年11月終了予定)
「金融の計量リスク管理分科会」(塚原英敦主査: 2009年9月発足, 2017年8月終了予定)

4. 統計関連学会連合の事業推進に協力する。

5. 国際学会、国際シンポジウムに協力する。

6. 会員に有益と思われる学会やシンポジウムを後援する。

III. 会員関係事業

1. 賞の授与

学会活動の活性化促進のため、以下の賞を会員等に授与する。

第21回日本統計学会賞

第12回日本統計学会統計活動賞

第12回日本統計学会統計教育賞

第10回日本統計学会研究業績賞

第9回日本統計学会出版賞

第30回日本統計学会小川研究奨励賞

2. 各種委員会の活動

年2回社員総会を開催する。

年4回理事会を開催する。

年1回役員・代議員協議会を開催する。

その他の各種委員会を適宜、開催する。

3. 広報活動の充実

メールマガジンの使用やホームページの充実により、各種情報発信を促進する。

英文のホームページを充実させる。

4. 入会者の拡大

春季集会等の機会を利用し、若手の研究者の拡大を促進する。

統計検定の合格者を対象とし、統計利用者の拡大を促進する。

准会員(仮称)について検討する。

IV. 啓発及事業

1. 「統計検定」の実施協力

日本統計学会が認定団体となり、公益財団法人統計情報研究開発センターおよび一般財団法人統計研究会の共催の下に、一般財団法人統計質保証推進協会が「統計検定」を実施する。また、統計検定に関わる書籍を刊行する。

2. MOOCによる統計学講座の提供

MOOCによる統計学の講座を開講するとともに、講座に関わる書籍を刊行する。

V. その他

1. 2017-2018年度代議員、会長、理事長選挙を実施する。

	16年度予算	15年度予算	14年度予算	備考
I. 事業活動収支の部	▲ 1,489	▲ 1,869	▲ 824	
一般勘定	▲ 939	▲ 109	26	
60周年記念基金	▲ 390	▲ 600	▲ 600	出版賞・小川賞以外の副賞、学会活動補助
75周年記念基金	▲ 50	▲ 50	▲ 50	出版賞副賞
小川基金会	▲ 110	▲ 110	▲ 200	小川基金会は2014年度より予算化
ISI基金	0	▲ 1,000	0	ISI基金は2013年度より管理(実際には2013年度使用せず)
ICP基金	0	0	0	ICP基金は2013年度より管理
学会活動積立金	0	0	0	
1. 事業活動収入	14,145	14,145	13,590	
会費収入	11,400	10,900	10,400	
名誉会員・正会員	10600	10100	9,600	
学生会員	200	200	200	
遡及請求分	600	600	600	
賛助人費	1000	1000	1,000	
団体会員費	280	280	280	
科学研究費補助金	0	500	500	
雑収入	1,465	1,465	1,410	
会誌購読料	700	700	700	
利子収入	15	15	10	
広告収入	700	700	700	
その他	50	50	0	著作権許諾料他
経済学会連合会補助金	0	0	0	
2. 事業活動支出	15,634	16,014	14,414	
印刷費	8,050	8,150	7,650	
会誌(46巻1,2号、46-No.1,2)	6,800	6,800	6,300	
会報(167-170号)	750	750	750	
名簿印刷費	0	100	0	
その他	500	500	600	会誌・会報の封筒作成等
大会等開催費	1,250	1,250	1,250	
春季集会開催費	600	600	600	
各賞運営経費	390	390	500	懇親会招待,表彰状,副賞(60周年記念基金充当)
出版費	50	50	50	75周年記念基金充当
小川賞費	110	110	-	小川基金会充当
その他	100	100	100	賛助会員参加費補助
研究部会費	300	300	300	
研究分科会費	100	100	100	
学会運営会費	270	270	230	
代議員会(社員総会)	70	70	70	
特別委員会	60	60	20	
統計教育委員会	20	20	20	
会誌編集委員会	20	20	20	
理事会	100	100	100	
事務費	280	280	280	
一般事務人件費	40	40	20	
校正編集事務人件費	80	80	100	
発送事務人件費	90	90	90	
事務用品	40	40	40	
事務室借料	0	0	0	
その他	30	30	30	事務員の交通費等
学会事務業務委託費	2,592	2,592	2,592	
通信・郵送費	1,460	1,460	1,450	
会誌送料	600	600	600	
会報送料	450	450	450	
名簿送料	10	10	0	
その他通信・郵送料	400	400	400	
役員旅費補助	500	150	120	理事会における理事の旅費等
各種分担金	150	150	150	
日本経済学会連合	35	35	35	
国際統計協会ISI	25	25	25	
積幹連合	50	50	50	
統計関連学会連合	40	40	40	
ネットワーク維持費	42	42	42	ドメイン使用料,学会サーバー委託費,Web名簿維持費
国際交流促進費	200	200	250	海外よりの招聘
名簿作成積立金	0	0	0	
統計検定関係費	0	0	0	
ホームページ更新費用	370	0	0	学会ホームページの更新を委託
租税公課	70	70	70	
世界統計会議 (ISI) 派遣補助	0	1,000	0	ISI基金目的使用
II. 投資活動収支の部	0	0	0	
投資活動収入	0	0	0	
投資活動支出	0	0	0	
III. 予備費	3,000	3,000	3,000	

7. 社員総会報告

日時：2016年3月4日（金）18：30～20：00

場所：東北大学川内南キャンパス文科系総合講義棟第3小講義室

出席者：岩崎学会長，代議員：狩野裕，鎌倉稔成，竹内光悦，谷崎久志，田畑耕治，田村義保，中野純司（以上8名，委任状提出10通，議決権行使書17通）（オブザーバ：照井伸彦，酒折文武，間野修平，山下智志）

冒頭，岩崎会長より定足数確認後，開会宣言がなされ，オブザーバ4名の出席が承認された。岩崎会長より議事録署名人として竹内光悦，田村義保，両代議員が提案され，承認された。

審議事項

<第1議案> 日本統計学会定款細則の変更

岩崎会長から，資料に基づき，公益財団法人統計情報研究開発センターの表記変更について提案があり，承認された。

<第2議案> 日本統計学会委員会規定の変更

（常設委員会の新設）

岩崎会長から，資料に基づき，渉外委員会の新設とそれに伴う委員会規定の変更について提案があり，承認された。

<第3議案> 日本統計学会研究部会規定の変更及び研究部会募集の停止

岩崎会長から，日本統計学会研究部会規定の変更（研究部会募集停止及び再開）について提案があり，承認された。さらに，この変更に基づき2016年度の研究部会募集停止の提案があり，承認された。

<第4議案> 学会賞各賞の選考委員に関する件

（学会賞各賞規定「選考方法」）

岩崎会長より，選考委員として照井伸彦氏および江口真透氏を推薦することの提案があり，承認された。

報告事項（理事会報告）

1. 2016年度事業計画

中野理事長より，資料に基づき，2016年度事業計画について報告があった。

2. 2016年度予算

中野理事長より，資料に基づき，2016年度予算について報告があった。

3. 会員の入退会

中野理事長より，回覧資料に基づき，会員の入退会について報告があった。

4. その他

なし。

報告事項（委員会報告）

1. 常設委員会における委員長・委員の交代について

中野理事長より，資料に基づき，常設委員会の委員の交代について報告があった。

2. 2016年度統計関連学会連合大会について

中野理事長より，2016年度統計関連学会連合大会について報告があった。

3. 2016年3月開催の春季集會について

中野理事長より，資料に基づき，2016年3月開催の春季集會について紹介があった。

4. 日本統計学会各賞について

中野理事長より、日本統計学会各賞の募集締め切りが2016年4月1日であるとの報告があった。

5. その他

岩崎会長より、欧文誌の統合について説明があった。

報告事項（その他）

1. 学会活動特別委員会

報告事項なし。

2. 学会組織特別委員会

報告事項なし。

3. 統計教育委員会、同分科会

竹内委員長から、資料に基づき、2015年度の活動報告、ならびに2016年度の活動計画が示された。

4. 次回日程等

中野理事長より、2016年度定時社員総会を2016年6月18日（土）13：30より開催する予定であるとの報告があった。

5. その他

なし。

8. 博士論文・修士論文の紹介

最近の修士論文・博士論文を原稿到着順に紹介いたします。(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年月 の順に記載いたします。なお、(6) 取得年月の記載のないものはすべて2016年3月です。(敬称略)

● (1) 加藤駿典 (2) 修士(工学) (3) 大阪府立大学 (4) Fused Lasso に基づくスパース順序ロジットモデリング (5) 栗木進二(主査), 川野秀一(指導教員)

● (1) 野崎俊貴 (2) 修士(工学) (3) 大阪府立大学 (4) 適応正則化オンライン学習における特徴選択問題 (5) 栗木進二(主査), 川野秀一(指導教員)

● (1) 安藤宗司 (2) 博士(理学) (3) 東京理科大学 (4) Model and measure of symmetry for ordinal square contingency tables (5) 富澤貞男

● (1) 相澤愛奈 (2) 修士(理学) (3) 東京理科大学 (4) Decompositions of sum-symmetry model for ordinal square contingency

table (5) 富澤貞男

● (1) 赤堀真司 (2) 修士(理学) (3) 東京理科大学 (4) An entropy measure of departure from point-symmetry for multi-way contingency tables (5) 富澤貞男

● (1) 大山智基 (2) 修士(理学) (3) 東京理科大学 (4) Decompositions of symmetry using cumulative sub-asymmetry models for square contingency tables (5) 富澤貞男

● (1) 掛札純平 (2) 修士(理学) (3) 東京理科大学 (4) A measure of departure from average symmetry for square contingency tables with ordinal categories (5) 富澤貞男

● (1) 澁谷 明 (2) 修士(理学) (3) 東京理科大学 (4) Extension and generalization of the diagonal exponent symmetry model for square contingency tables with ordered categories (5) 富澤貞男

● (1) 須藤孝浩 (2) 修士(理学) (3) 東京理科大学 (4) A model having structures of generalized marginal homogeneity and quasi-symmetry for square contingency tables with

- ordered categories (5) 富澤貞男
- (1) 檜垣宣貴 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Parsimonious independence model and its orthogonal decomposition for two-way contingency tables (5) 富澤貞男
 - (1) 前田良太郎 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Extended double asymmetry model and decomposition of double symmetry for square contingency tables (5) 富澤貞男
 - (1) 松田裕也 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Double-symmetry models and its decomposition in collapsed square contingency tables (5) 富澤貞男
 - (1) 茂木嶺志 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Yule type measure of departure from marginal homogeneity for square contingency tables with ordered categories (5) 富澤貞男
 - (1) 黒澤大樹 (2) 修士 (理学) (3) 中央大学 (4) Bayesian soft-impute による低ランク行列のモデリング (5) 酒折文武
 - (1) 嶋村海人 (2) 修士 (理学) (3) 中央大学 (4) ベイズアプローチによるスパースモデリングとモデル選択 (5) 小西貞則
 - (1) 森 拓也 (2) 修士 (理学) (3) 中央大学 (4) 正則化非線形ロジスティック回帰による多群判別 (5) 小西貞則
 - (1) 水野怜奈 (2) 修士 (数理科学) (3) 南山大学 (4) 途中打ち切りありの生存時間解析における例数設計法の比較 (5) 松田真一 (6) 2016年2月
 - (1) 安藤周平 (2) 修士 (数理科学) (3) 南山大学 (4) 3つのパラメータをもつ汚染近傍とそのロバスト推測への応用 (5) 木村美善 (6) 2016年2月
 - (1) 鬼頭広大 (2) 修士 (数理科学) (3) 南山大学 (4) 多群ワイブルモデルにおけるすべての尺度母数相違の多重比較法 (5) 白石高章 (6) 2016年2月
 - (1) 宮崎 諒 (2) 修士 (数理科学) (3) 南山大学 (4) 多群ワイブルモデルにおける順序制約のある場合の多重比較法 (5) 白石高章 (6) 2016年2月
 - (1) 井上奨也 (2) 修士 (工学) (3) 熊本大学 (4) 順序制約の下での信頼区間について (5) 岩佐 学
 - (1) 河野俊太郎 (2) 修士 (工学) (3) 熊本大学 (4) 主成分分析とその応用 (5) 高田佳和
 - (1) 山下修平 (2) 修士 (工学) (3) 熊本大学 (4) 一般線形回帰分析とその応用 (5) 高田佳和

9. 新刊紹介

会員からの投稿による新刊図書の紹介記事を掲載します。

・「実践でわかる！Rによる統計遺伝学」, アンドレア・S.フォルクス 著, 西山毅 監訳, 丸善出版, 2016年1月, 4800円+税.

内容紹介: フリーソフトRとサンプルデータを用いて例題を実際に解析することにより, 統計遺伝学の習得を目指す入門書. 家系データを扱わず, 一般集団を対象にした関連研究のみを扱うことで

ページ数を抑えている.

・「医療系のための統計入門」, 景山三平監修, 藤井良宜編修, 藤井良宜, 佐藤健一, 富田哲治, 和泉志津恵著, 実教出版, 2015年11月, 2200円+税
内容紹介: 新学習指導要領で学んだ大学生を対象とした教科書です. 各章の初めに示す「課題」に答えられるように学習を進めていく形式となっています. 前半は一般的な内容ですので, 医療系以外でも活用可能です.

10. 学会事務局から

学会費払込のお願い

2016年度会費の請求書が会員のお手元に届いていることと思います。会費の納入率が下がると学会会計に大きく影響いたします。速やかな納入にご協力をお願い申し上げます。また便利な会費自動払込制度もご用意しています。次の要領を参照の上、こちらもご活用下さい。

学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに、氏名と住所を以下にお伝えください。手続きに必要な書類が送付されます。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6
能楽書林ビル5F

公益財団法人統計情報研究開発センター内

日本統計学会担当

Tel & Fax : 03-3234-7738

E-mail : shom@jss.gr.jp

訃報

次の方が逝去されました。謹んで追悼の意を表

し、御冥福をお祈り申し上げます。

鈴木 雪夫 名誉会員
大津 皓平 会員

入会承認

梅津佑太, 小川健, 金子修, 西郷浩人, 細坪護拳, 南和宏, HUNG HUNG, (株)クリムゾンインタラクティブ (敬称略)

退会承認

市川達夫, 禰道守, 黒田昌裕, 中條安芸子 (敬称略)

現在の会員数 (2016年2月24日)

名誉会員	16名
正会員	1,440名
学生会員	64名
総計	1,520名
賛助会員	19法人
団体会員	7団体

11. 投稿のお願い

統計学の発展に資するもの、会員に有益であると考えられるものなどについて原稿をお送りください。以下のような情報も歓迎いたします。

- 来日統計学者の紹介
訪問者の略歴、滞在期間、滞在先、世話人などをお知らせください。
- 博士論文・修士論文の紹介
(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年月 をお知らせください。
- 求人案内 (教員公募など)

- 研究集会案内
- 新刊紹介
著者名、書名、出版社、税込価格、出版年月をお知らせください。紹介文を付ける場合は100字程度までとし、主観的な表現は避けてください。
- 会員活動紹介 (叙勲・受章、各種受賞等)
できるだけe-mailによる投稿、もしくは、文書ファイル (テキスト形式) の送付をお願い致します。

原稿送付先：

〒700-0005 岡山県岡山市北区理大町1-1
岡山理科大学 総合情報学部 社会情報学科
森 裕一 宛

E-mail：koho@jss.gr.jp

(統計学会広報連絡用 e-mail アドレス)

- 統計学会ホームページ URL：
<http://www.jss.gr.jp/>
- 統計関連学会ホームページ URL：
<http://www.jfssa.jp/>
- 統計検定ホームページ URL：
<http://www.toukei-kentei.jp/>
- 住所変更連絡用 e-mail アドレス：
meibo@jss.gr.jp
- 広報連絡用 e-mail アドレス：
koho@jss.gr.jp
- その他連絡用 e-mail アドレス：
shom@jss.gr.jp